

第1章 計画の概要

第2章 現状把握

第3章 前回計画の検証

第4章 国の方向性と本市の課題

第5章 基本計画

第6章 具体的な取組

第7章 推進体制

資料編

1 基本方針

自転車は環境にやさしいモビリティであるとともに、サイクリングを通じた健康づくりや余暇の充実等、人々の行動を広げる重要な交通手段のひとつです。

また、新型コロナウイルス感染症の拡大をはじめとする昨今の社会情勢の変化は、人々のライフスタイルや交通行動にまで影響を及ぼしており、様々な利点を持つ自転車へのニーズの高まりがみられる中、子どもや高齢者、来訪者等を踏まえ、だれもが安全で快適に利用できる自転車の普及を更に進めることが必要となっています。

このような中、本市では、市民一人ひとりにとって自転車が魅力的な交通手段となるよう、自転車利用環境を高め、利用の促進を図ることで「だれもが安全・快適に自転車を利用できるまちの実現」を目指します。

■基本方針

**だれもが安全・快適に
自転車を利用できるまちの実現**

温泉と 保険は入ると ホツとする

令和4年度標語コンクール 保険の部 特別賞作品

2 目標と施策の体系

目標の達成に向けて、多様な施策に取り組みます。

■目標と施策の体系

分野	目標	施策
 都市環境	都市の自転車利用環境の向上を図ることにより、便利で快適、きれいなまちをつくります。	1. 安全で快適な自転車通行空間づくり 2. 便利で適切に利用される駐輪環境づくり 3. 交通施策と連動した便利で多様な仕組みづくり
 健康	自転車の利用を促進することにより、市民の心と体が元気になるまちをつくります。	4. 情報発信等による自転車利用の促進 5. サイクルスポートの普及促進
 観光	観光振興や地域振興に自転車を活用し、にぎわいと活力あふれるまちをつくります。	6. サイクルツーリズムの推進
 思いやり ＜安全・安心＞	思いやりの心を醸成し、自転車にみんなが正しく乗れる安全・安心なまちをつくります。	7. 自転車の安全利用 8. 災害時の自転車活用方策の検討

ヘルメット かぶって僕は 安全運転

令和5年度標語コンクール 小学生の部 最優秀作品

3 評価指標

■評価指標

設定項目	数値目標		計画目標との主な関連性			
	現状	目標	目標1	目標2	目標3	目標4
①自転車ネットワーク整備延長	28.3 km (R2～5年度)	25 km / 5年	都市環境	健康	観光	思いやり ＜安全・安心＞
②自転車を週5日以上利用する市民の割合	18.9 %	20 %	都市環境	健康	観光	思いやり ＜安全・安心＞
※「大分市の自転車利用環境に関するアンケート」による把握（令和11年度実施予定） ※計画期間5年間での目標とする						
③自転車ルール・マナー啓発活動の回数	33.5 回 (R2～5年度平均)	35 回 / 年				思いやり ＜安全・安心＞
④自転車事故の件数	206 件 (R2～5年平均)	年間210 件以下	都市環境			思いやり ＜安全・安心＞

ヘルメット 未来を守る 必需品

令和5年度標語コンクール 中学生の部 最優秀作品